

息抜きの散歩道 25号


発行者：日本工業大学LCセンター(図書館) 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1

発行日：2026年4月1日

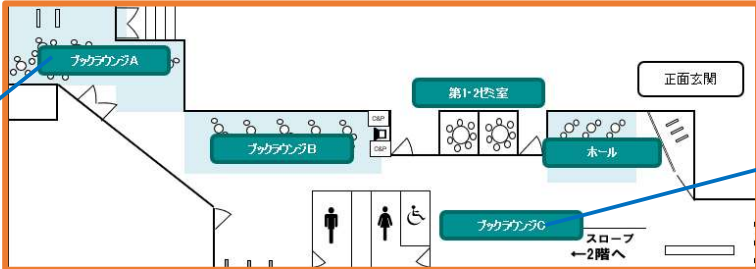
LCセンターをアップデートしました。

LCセンターに居心地の良い空間ができました。静かに勉強などができる個人スペースとボックス席、ゆっくりできる畳敷きの場所など、学生の皆さんが、それぞれのペースで過ごせるようリニューアルしました。皆さんのご利用、お待ちしております！



ブックラウンジA



静かなスペースです。個別の学修コーナーと、ボックス席があります。




ブックラウンジC

スロープ下のスペースです。カードゲームなどを利用できます。

第3ゼミ室



畳のスペースができました。ゆっくり読書を楽しんだり、休息したり、思い思いのスタイルで過ごせます。

貸出冊数が増えました。

2026年4月から、学生と教職員の貸出冊数が増えました。

利用者種別	貸出冊数	貸出期間
学部学生1～3年	10冊	14日間
学部4年生・院生・教員	20冊	30日間
職員	10冊	

詳細は、LCセンターのホームページでご確認ください。

ボードゲームはじめました。



LCセンターの学生ボランティア「ライブラリーサポーター」の発案で、ボードゲームなどを購入しました。近年、図書館でも利用者にゲームを提供するようになりました。LCセンターでも、館内でボードゲームなどを利用できます。

どのようなゲームがあるのか、LCセンターに見に来てくださいね。



ブログでは特集展示のブックリストをご覧ください。「カテゴリ」で特集展示を選択してください。



LCセンター発行誌です。教職員の皆さまにご寄稿いただいています。



LCセンターの学生ボランティア「ライブラリーサポーター」を募集中です。興味のある方は2階カウンターにお越しください。

LCセンターだより

この春、LCセンターは大きくリニューアルしました。これまではなかったボックス席や畳敷きのスペースは複数人での利用が可能です。控えめな音量ならおしゃべりしても大丈夫。ディスカッションしながらプレゼンの準備をしたり、畳の上でまったりしたりと自由に活用してください。なお、混雑する時間帯もあるかと思しますので、個別スペースも含め譲り合ってください。



250文字ブックレビュー

図書委員の先生方から、おすすめ本の紹介です。

『巖嵐』 吉村 昭/著 新潮社/刊 出版年：1982年11月

近年、熊などの野生動物による被害を耳にすることが増えました。しかし、野生動物と人類の衝突は今に始まった事ではなく、大正四年の冬に北海道で起きた日本獣害史上最大の惨事もその一つです。吉村昭氏の徹底した調査と圧倒的な表現力によって描かれた『巖嵐』は、大自然の猛威に翻弄される人間の無力さと生きる事への執着を炙りだします。三毛別川の支流六線沢に沿って谷を進むと、今では無人となった現場付近に当時を復元した小屋がひっそりと立っています。足を踏み入れた時、森を抜ける風の音が何かを忠告している気がしたのです。

機械工学科 中野 道王

『しらべる つながりのずかん』 おかべたかし/文 東京書籍/刊 出版年：2025年6月

子ども向けに分かりやすく書かれているが、大人が読んでも思わず「なるほど」と感じる内容で楽しめる一冊である。身近な自然現象を「つながり」という視点で紹介しており、科学への興味を自然に引き出してくれる点が魅力的である。また、「カミナリが落ちるとキノコがよく育つ」に関するページでは平栗が監修を担当しており、内容の確かさにも安心感がある。親子で一緒に読みながら学べる良書である。

電気情報工学科 平栗 健史

『大学貧乏物語』 有馬 朗人/著 東京大学出版会/刊 出版年：1996年3月

大学で学ぶとはどういうことか。若い人に向けて語りかける言葉が詰まった一冊である。著者は東京大学総長（1989～1993年）や文部大臣を務めた物理学者・有馬朗人。本書後半の「学生諸君へ」では、東京大学の入学式や卒業式での祝辞、さらに小中学生への講演がスライド付きで紹介されている。学ぶことの喜びや科学の魅力、未来への期待が、温かな言葉で語られる。俳人としても知られる著者ならではの心に残る言葉を、ぜひ味わってほしい。

環境生命化学科 白木 将

『入社1年目の教科書』 岩瀬 大輔/著 ダイヤモンド社/刊 出版年：2011年5月

刊行以来10年以上にわたって根強い人気を誇るビジネス書であり、社会人としての基本姿勢や仕事の進め方を具体的に示した実践的な一冊です。本書では、指示の受け方、報告・連絡・相談の重要性、仕事に対する主体的な姿勢など、入社直後の社員が身につけておくべき行動指針が分かりやすく解説されています。単なる心構えにとどまらず、日々の業務で実践できる具体的なアドバイスが多く盛り込まれており、新入社員はもちろん、若手社員が自分の働き方を見直すうえでも有益です。社会人としての基礎力を養う入門書として、多くの方に推薦したい一冊です。

ロボティクス学科 宮川 豊美

『深夜特急1 - 香港・マカオ』 沢木 耕太郎/著 新潮社/刊 出版年：1994年3月

『深夜特急』シリーズ全6巻は、沢木耕太郎氏が若き日にアジアからヨーロッパまで陸路で旅した体験を臨場感たっぷりに描いた紀行文です。第1巻では1980年代の香港やマカオの混沌とした街が生き生きと描かれ、雑踏や屋台の喧騒、人々の自由で闊達な日常が旅の予測不能な面白さを際立たせ、強烈な冒険心を呼び覚まします。圧倒的な筆力に引き込まれ、まるで自分も異文化に飛び込んだかのようなワクワク感を味わえます。読後には「未知の世界へ旅に出たい」という衝動が湧き、さあ次はどこへ冒険に出ようかと心が躍る一冊です。

情報メディア工学科 杉森 順子

『世界最先端の研究が教えるすごい哲学』 稲岡 大志 [ほか] /編 綜合法令出版/刊 出版年：2022年12月

哲学書というと哲学史を連想していたのですが、「世界最先端の研究が教える」というキャッチに惹かれて読んでみました。現代の哲学者たちが、1テーマ4～5ページで議論していて、全51テーマはどこから読んでも面白いです。例えば故人のAvatar作成について、本人と同一であると言えるのか、死後のプライバシーは保護されるのか、遺族や社会への影響は、などを論じています。このテーマでは、情報技術と倫理の交差領域を扱っている雑誌「Ethics and Information Technology」を参考文献としています。

データサイエンス学科 北久保 茂

『大衆の反逆』 ホセ・オルテガ・イ・ガゼット/著 岩波書店/刊 出版年：2020年4月

スペインの哲学者オルテガが1930年に著した文明批評。近代化が進むと、便利な生活を享受する人が増える。彼等は、それを支える他者の存在や先人の営為が無頓着になりがちで、結果、独りよがりな我が儘な子供のように振る舞う。オルテガはそうした人々を「大衆」と称し、その増殖が社会を劣化させる未来を危惧した。オルテガ曰く「大衆」化し易いのは、農漁村と縁遠い大都市の生活者や他領域への関心が乏しい専門家とのこと。東京一極集中が止まらない現代の日本社会や専門特化が顕著な工学者の振る舞いを見直すためにも一読されたい。

建築学科 安野 彰

『保守主義とは何か - 反フランス革命から現代日本まで -』 宇野 重規/著 中央公論新社/刊 出版年：2016年6月

2026年2月に衆議院総選挙が行われ、保守政党とされる自民党が歴史的勝利を収めたことから、日本は保守に向かっていると言える。現在の日本では、個人の自由を標榜するリベラルに反対する勢力としての保守というマイナスイメージが存在するが、そもそも保守主義とは一体どのような思想であるのか。リベラルが孕む現実を顧みず理想・理念のみを追い求める傾向にブレーキをかけ、現実や伝統を維持し、運営しようとしてきた保守主義を、フランス、イギリス、アメリカ、そして日本の歴史と実例を参照し、保守主義とは何かを本書は探っている。

共通教育学群 一瀬 厚一